

## (3) 駐車場の管理運営方法について

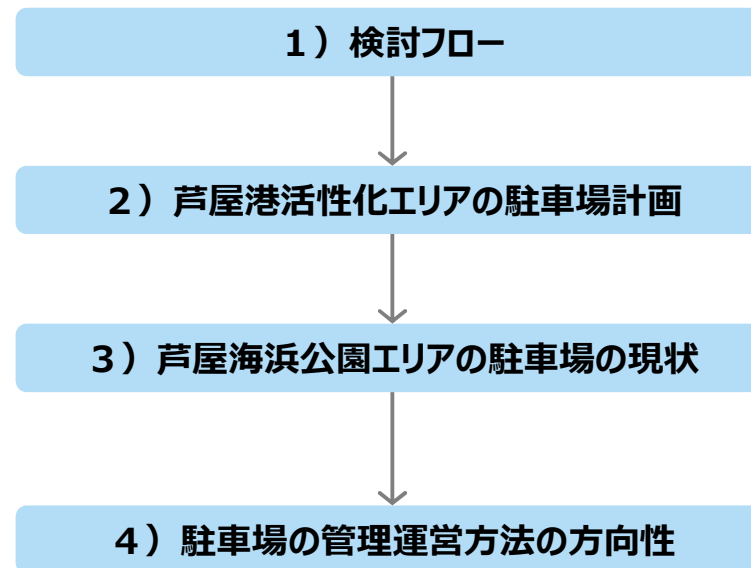
- 1) 検討フロー
- 2) 芦屋港活性化エリアの駐車場計画
- 3) 芦屋海浜公園エリアの駐車場の現状
- 4) 駐車場の管理運営方法の方向性

令和3年8月5日  
芦屋港活性化推進室

## (3) 駐車場の管理運営方法について

### 1) 検討フロー

- 芦屋港活性化エリアに計画している導入機能・施設に伴い、駐車場整備が必要となります。
- 隣接する芦屋海浜公園エリアに既存の駐車場があるため、一体的な空間形成にあたっては、駐車場の管理運営方法についても検討する必要があります。
- そこで、下図の検討フローに基づき検討を行いました。



### (3) 駐車場の管理運営方法について

#### 2) 芦屋港活性化エリアの駐車場計画

- 芦屋港活性化基本計画では、下図に示す駐車場の整備が計画されています。
- 一部はポートパークのオーナー専用の駐車場となっており、その他は各施設の兼用駐車場となっています。
- 既存港湾施設（1号上屋）及び全天候型施設整備に併せて、各施設に一定の駐車場が必要となります。



# (3) 駐車場の管理運営方法について

## 3) 芦屋海浜公園エリアの駐車場の現状

- 芦屋海浜公園内には、約1,000台の駐車場があります（一部は区画線無し）。
- 芦屋海浜公園内の駐車場は、指定管理者が維持管理を行っています。
- 利用料金は原則無料ですが、夏季（アクアシアン営業期間中）は、来訪者増や利用者のマナー低下を防ぐため、有料とし、指定管理者が町から運営委託を受託しています。



図 芦屋港活性化エリア周辺の駐車場分布

<b>利用可能時間</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4月～6月・9月～11月 ; 7:00～18:00</li> <li>● 海水浴場開設期間 ; 7:00～20:00または22:00</li> <li>● 12月～3月 ; 8:30～17:00</li> </ul>
<b>有料期間</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例年は、レジャープールアクアシアン営業期間中（7月上旬～8月末）</li> <li>※R2年はレジャープールアクアシアンが営業休止だったため、海水浴場開設期間中のみ料金を徴収</li> </ul>
<b>有料期間中の利用料金</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普通車 ; 500円/日</li> <li>● 大型車 ; 1,500円/日</li> <li>● 原付、自動二輪 ; 100円/日 (障がい者手帳提示にて半額)</li> </ul>
<b>有料期間中の利用台数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平均約540台/日 (全車種の合計台数の平均 (H27年～R1年) )</li> </ul>

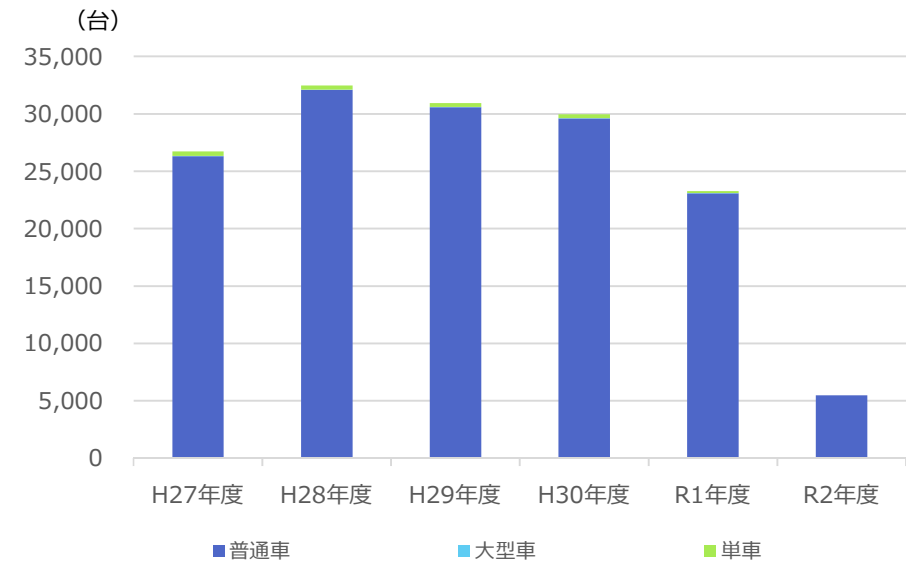


図 芦屋海浜公園駐車場利用台数（芦屋町提供資料より）  
※有料期間のみの利用台数データ

### (3) 駐車場の管理運営方法について

#### 4) 駐車場の管理運営方法の方向性

- 駐車場管理においては、利用者のマナーや、芦屋港活性化エリアに計画している導入機能・施設の一部は24時間利用が想定されること、隣接する住宅地との関係から、適正な管理が求められます。
- このため、駐車場の適正管理、駐車場利用者の利便性、収益性の面を考慮し、検討を行いました。
- まずは、料金徴収の運用に関して、利用者視点と管理者視点からメリット・デメリットを下表に整理しました。

	有料の場合	無料の場合
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・不特定多数の利用が避けられることから、施設利用者のための十分なスペースが確保されやすい。</li><li>・施設運営事業者が駐車場による収益を得ることができる。</li><li>・長期での駐車など抑制でき、利用者のマナーが保たれる。</li><li>・入出庫の管理を行うことにより、駐車場の利用台数をデータ化、利用状況を把握・分析できる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・気軽に来訪でき、入出庫時に混雑しづらい。</li><li>・設備の管理コストが不要となる。</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・気軽に来訪しづらく、入出庫時に混雑が発生する可能性がある。</li><li>・機械トラブルの対応やメンテナンスなど設備の管理コストが発生する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・不特定多数の利用により、施設利用者のための十分なスペースが確保されにくい。</li><li>・施設運営事業者が駐車場による収益を得ることができない。</li><li>・長期での駐車など抑制できず、利用者のマナーが低下する。</li><li>・駐車場の空き状況や利用者数を把握するのが困難。</li></ul>

#### 【料金徴収の運用の考え方】

- 管理運営者側の視点では有料の方が、利用者側の視点では無料の方がメリットが大きいと考えられます。
- 現状では、適正管理を行うためには、地域住民や管理運営事業者、利用者などの意見も踏まえながら、料金徴収の運用を定めることが望ましく、管理運営組織形成までの検討課題とします。
- また、有料とした場合には、利用者側の視点として来場意欲の減少が考えられることから、芦屋港活性化エリア内で一定額の消費行動（飲食・購買、ボートパーク利用等）や数時間の利用者に対しては、駐車場料金減額を検討する必要があります。

### (3) 駐車場の管理運営方法について

#### 4) 駐車場の管理運営方法の方向性

- 駐車場の管理運営は、①施設毎での管理運営、②運営事業者による一括管理運営の2つが考えられます。
- 利用者視点、行政視点、事業者視点でそれぞれの特徴を下表に整理しました。

	①施設毎での管理運営	②運営事業者による一括管理運営
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>• 施設毎で利用時間や、公益性の高い施設と収益施設が混在することから、利用者ニーズに沿ったサービスを提供できる。</li><li>• 駐車場料金により、各施設の運営事業者の収益になる。</li><li>• 各施設の運営事業者が、利用者の状況（利用台数、滞在時間等）を把握できる。</li><li>• 各施設の運営事業者が管理することで、トラブル等への対応が迅速にできる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 駐車場管理専門事業者のノウハウを活かしたサービスを利用者に提供できる。</li><li>• 駐車場料金により、運営事業者の収益になる。</li><li>• 運営事業者がエリア全体の利用状況（利用台数、滞在時間等）を把握できる。</li><li>• トラブル等の対応が一括で行うことができる。</li><li>• 全ての駐車場を管理するには広範囲となる。</li><li>• 運営事業者の管理拠点を確保する必要がある。</li></ul>

#### 【駐車場の管理運営方法の考え方】

- 駐車場の管理運営方法として、①施設毎での管理運営、②運営事業者による一括管理運営とでは、利用者視点、行政視点、事業者視点から、どちらも良い点は挙げられます。
- 現状では、適正管理を行うためには、料金徴収の運用と同様に、地域住民や管理運営事業者、利用者などの意見も踏まえながら駐車場の管理運営方法を定めることが望ましく、管理運営組織形成までの検討課題とします。